

合は、鉤となる4本に加えて、もう1本の計5本を用意します。アルミの針金で代用する場合も、同様に33cm程度で切り分けておきます。アルミであれば、(ペンチの刃が多少痛むかもしれませんが)ペンチでも切断できると思います。真鍮などを利用する際は、金鋸での切断が無難です。断端は怪我をしないように、ヤスリをかけておくとよいです。

組み立て手順

1. 円板A周囲の4個の穴に、なべネジを通します。(組立図1)
2. 各々のネジをドライバーやペンチを使いナットを締めて、円板Aを固定します。(組立図2)
3. 各々のネジに、ナットを5mm程度、進めます。(組立図3。それぞれ同じだけ進めます。)
4. 円板Bの外周の穴のうち4個に、各々のネジを挿入します。(組立図4)
5. ナットで、円板Bを固定します。(組立図5。できたら、ちょっと脇に置いておきます。)
6. 次に、ネジ棒に端から5mmの所まで、ナットを入れます。(組立図6)
7. 円板Cの中心の穴を通します。(組立図7)
8. さらに、その上からナットで固定します。(組立図8)
9. 円板Cを固定したネジ棒を、先に組んだ円盤A,Bの中心の穴に通します。(組立図9)
10. 丸棒を円板C、Bの順に通し、円板Bの先で、図のように曲げます。ここを支点に鉤は開閉するので、あまりきつく締めると開閉しにくくなります。だからといって緩すぎると、外れたり、開閉の際に丸棒がねじれの向きに回ってしまい、鉤の向きがきれいに外を向かなくなるので、後で調整してください。残りの3本も、同様に固定します。(組立図10)
11. 丸棒(鉤)の先端を曲げて、整えます。円板近くから曲げると、スライドしにくくなりますので、先端の方を曲げるようにします。スライドして開閉の調子を見ながら曲げるとよいと思います。手できれいに曲げるのは難しいです。腕の見せ所です。(組立図11)

最後に、ロープを固定するための輪を、ネジ棒の端を丸めてたり、もしくは、吊り金具(額縁の取付金具)等を使って、ロープを付ければ完成です。(ロープをつけるための金具を探したのですが、吊り金具程度の物しか見つかりませんでした。吊り金具では、強度が弱い者が多いので、不安感があります。せっかく作った藻掻きが、投げ入れたら あれっ? とならないように、各自工夫してみてください。ネジ棒の先を曲げて輪を作り、ロープを固定するのが一番と思います。

ネジ棒を使用しない場合

ネジ棒の代わりに、丸棒を使用しますが、円板Cを丸棒に固定する方法が変更になります。

(最後の参考図参照)

- ・参考図1: 丸棒の先端を曲げて、円盤Cを接着剤で固定します。丸棒と円板が垂直になるように接着して下さい。(曲げずに接着も可です。)金属用の強力な接着剤を選んで下さい。
- ・参考図2: ダイス(棒にネジ山を切る道具)をお持ちの方は、M3用のダイスで丸棒にネジを切り、ナットを使って、円板Cを固定します。

ネジ棒を使った場合、スライドする際に、ネジ山があるため音が出ますが、丸棒を使った場合は、スライドする際に音が出ず、スムーズで静かです。